

# 考えてみっぺ、村の学校

～今年の飯館村の教育～ 第9回



**Q** 村の学校に通う子ども達は、学校でどんな体験をしていますか？

**A** 小学校では、寿司職人の仕事を学ぶ特別授業を実施。  
中学校では、継続的にふるさと学習を行っています！

## 「働く」を知るための特別学習！

福島市のすし店で働く職人さんから、力加減の調整やにぎり方を教わり、マグロやタイなどのにぎりずしに挑戦しました。

子ども達のほとんどが初めての体験。「お寿司屋さんの苦勞が分かった」「たくさん勉強して、自分の夢を叶えたい」との感想がありました。



## 「飯館村の伝統」を知るためのふるさと学習！

飯館中学校では、村の伝統を知るためにふるさと教育の一環として田植え踊りを行っています。

中学生による田植え踊りは、村文化祭などの村行事で披露され、村の伝統をしっかりと引き継いでいます。



## 見て、感じて、考えて。子ども達の可能性をどんどん広げてみっぺ。

### 年の初めに

飯館村教育委員会  
学校教育指導員 海野 和夫

年の初めに振り返って、今年度、飯館村の学校教育にとって最も画期的であったのは飯館村学校運営協議会の誕生でした。これは国の法律に基づき、学校運営の基本方針等を協議会の委員が考え、同じ目標に向かって協働し、学校の教育力を引き出して行こうとする組織体です。会合を重ねる毎に、村民の方の発言が多くなり、コミュニティ・スクール(村の学校)としての機能が発揮されつつあります。これまでの学校任せ、校長任せの学校運営ではなく、保護者と村民の意向が強く反映された一貫性のある学校の運営が実現しようとしています。

年の初めに、もう一言申し述べることにします。それは、子どもたちの進路の問題です。大震災前、子どもたちの多くは近くの高校へ進学し、受験の苦勞を余りしないで済んでいました。それが避難により受験事情が一変しています。子どもたちは悩んでいます。悩みは人間を成長させますから悩ませるのは大切ですが、子どもを孤立させてはなりません。将来何をする人になるのか、進路をどうするのか、子どもの悩みに親は真剣に寄り添う必要があります。子どもも任せ、学校任せ、他人任せでないかわりを期待します。

教育相談申し込み 飯館中学校教頭まで  
024-573-1161



中学校は玉野寛子先生(左端)の授業。効果的な遮へいの方法を実験で確かめました



小学校では木口記良(のりよし)先生が授業を担当。退避と避難の違いなどを学びました

中学校の研究授業を受けた生徒の早川和沙さんは「離れば(線量が)低くなるのが分かりためになった」、荒大起さんは「注意すれば防げる。実行していきたい」と学びを振り返っていました。

12月2日、村の小中学校の教職員による、放射線教育の授業研究会が行われました。放射線教育とは、放射線の特性を知り、健康被害を避けるためにはどうしたらよいかを、児童・生徒が学ぶものです。小学校では3年生を対象に、中学校では2年2組で工夫を凝らした研究授業が行われました。先生方は互いの授業を見学。事後研究会では、専門家の指導助言を受けて、テーマや教材の取り上げ方、授業展開の工夫などについて話し合いを行いました。

## 放射線を「知る」授業への取り組み

平成26年度放射線教育授業研究会



幼稚園のもちつき会には、深谷行政区の有志が約40年、協力しており、村幼稚園の伝統行事のひとつとなっています。震災後、一度は中断しましたが、昨年からは復活しています。



「おかわり！」の声があちらこちらから聞かれました

12月4日、草野・飯樋幼稚園(福島市飯野町)で深谷行政区の有志、保護者らの協力を得てもちつき会が行われました。園児たちは、目の前で杵と臼を使ったもちつきを見学。もちをつくかけ声に合わせて「よいしょ、よいしょ」と声援を送りました。つきたてのもちを食べた園児は「やわらかくて、おいしい」「いい匂いだね」と笑顔を見せていました。

## もちつきペッタン 幼稚園のもちつき会